

福岡市の 防災・危機管理



国連ハビタット環境技術専門家会議

2015年11月16日

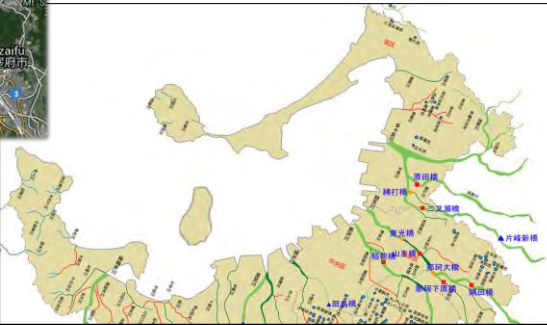
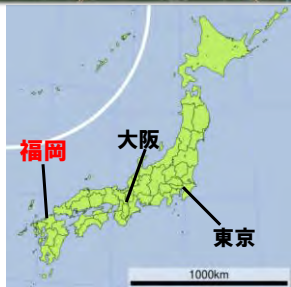


福岡市

1 福岡市の地勢



- 面積 341.70km²
- 東西 27.6km, 南北 31.9km
- 人口 150万人
- 平均気温 17.5℃
- 年間雨量 1,610mm
(過去10年間の平均)



- 豊かな自然と都市機能がコンパクトに調和した都市
- 山地と河川、海が近傍に存在
→ 大雨や地震が主として警戒すべき災害

2 福岡市における主たる災害

平成11(1999)年6月29日水害の状況



▲博多駅筑紫口



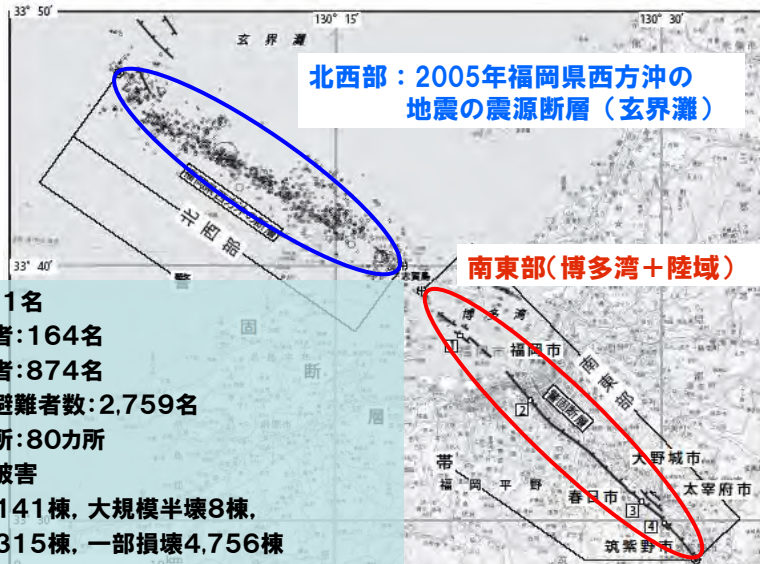
▲福岡市営地下鉄博多駅



▲博多駅東

- ・死者1名(博多駅周辺のオフィスビル街が冠水、ビルの地下1階で水死)
- ・重軽傷者1名
- ・住宅浸水
床上1,019棟, 床下2,154棟
- ・地下施設浸水81棟
- ・地下鉄運行停止約3時間
- ・降雨状況(福岡市内)
1時間最大77mm, ピーク3時間126mm

福岡県西方沖地震の概要と対応状況



- ・死者:1名
- ・重傷者:164名
- ・軽傷者:874名
- ・最大避難者数:2,759名
- ・避難所:80カ所
- ・住宅被害
全壊141棟, 大規模半壊8棟,
半壊315棟, 一部損壊4,756棟

2005年の地震で北西部にある断層のエネルギーは発散されましたが、都市部を走る南東部の断層については引き続きエネルギーが蓄積されている状態で、発生確率は全国的に見ても高いレベルです。

地震による玄界島及び志賀島の被害状況



- ・ 人的被害
重傷者 10 名, 軽傷者 9 名
- ・ 住宅被害
全壊 107 棟,
半壊 46 棟,
一部損壊 61 棟

島のほとんどの家屋が被害を受け、大きな被害は斜面地の木造住宅に集中しており、擁壁や法面の崩壊を要因とする被害が多く発生した。

2 教訓から学び、福岡市が実施していること 博多駅周辺地区での止水板設置例



博多駅の地下施設の浸水被害を教訓に、福岡市営地下鉄と博多駅隣接ビルが協力し、博多駅地下出入口の止水板を整備しました。2009年7月には、時間雨量116mmという市内での観測史上最大の大雨を記録し、ピーク3時間雨量も198mmの過去最大の大雨となりましたが、地下施設での浸水被害は発生しませんでした。

4

災害対応支援システム

避難所位置
を表示

天神1丁目

要援護者（仮置）

浸水地域（仮置）

災害時に福岡市の職員が使用するシステムで、本庁と各区役所間の情報伝達を円滑にすることができます。災害時の備えとして、本庁及び区役所の職員に対する慣熟訓練も実施しています。

レインボープラン博多

山王1号雨水調整池
（貯留量 約13,000m³）

山王ポンプ

山王調整池イメージ図

山王2号雨水調整池
（貯留量 約15,000m³）

比恵13号幹線の施工中内部

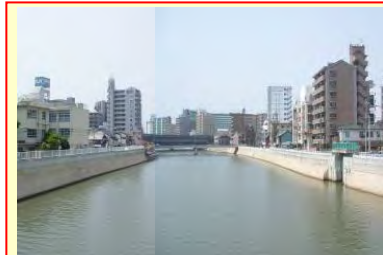
1号・2号調整池合わせて約28,000m³を貯水することができ、毎秒約2.0m³の水をポンプにより排水することができます。

御笠川の河川改修

施工前

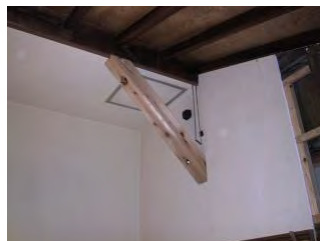


施工後



御笠川の川幅を広く、そして川底を深くする工事を実施し、流量能力が、1秒に730 t から890 t と大幅にアップしました。

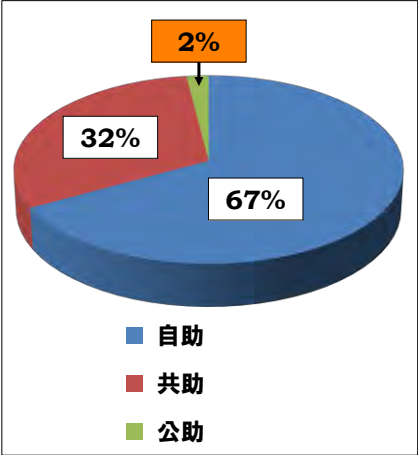
市施設の耐震化



平成23年度に学校施設の耐震化は完了しました。住宅については、2015年度末に90%とすることを目標としており、6月末時点で木造戸建住宅が68%、共同住宅が90%、あわせて86%の住宅が耐震化を完了しています。

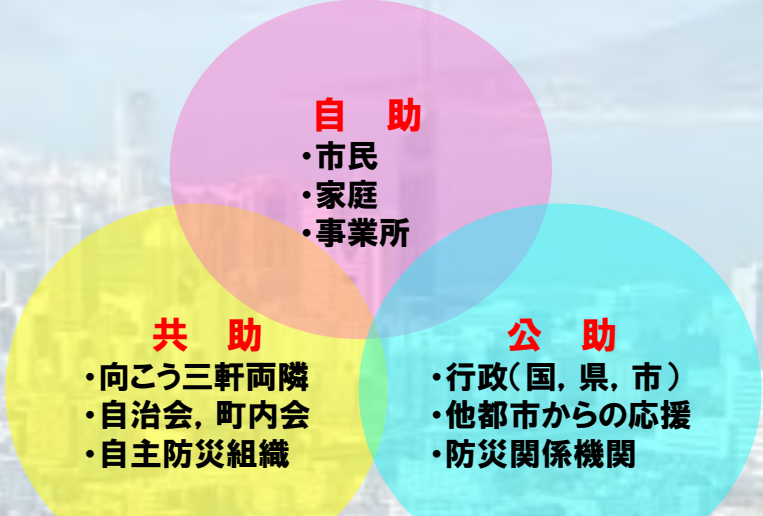
防災リーダーの育成

1995年に生じた阪神淡路大震災の後、約164,000人もの人々が壊れた住居内に閉じ込められました。
助かった要領の割合は以下の通りです。



自助・共助の重要性を認識し、自主防災組織の結成(全校区完了)と運営支援、及び博多あん・あん塾による防災リーダー育成を図っています。

みんなで作る防災態勢(防災の3つの輪)



災害の発生を防ぐことはできませんが、心がけ次第で被害を少しでも少なくすることはできると思います。今後とも、福岡市は、自助・共助・公助の3つの力を高めながら、災害に強い、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。